令和3年度　施策・基本事業マネジメントシート （令和2年度実績に基づく評価）

作成日　令和　3　年　8　月　6　日

政策体系				施策主管課長	
	基本目標名	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		スポーツ立市推進課
	政　策　名	2	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		村山　和之
	施　策　名	1	スポーツツーリズムの推進		
施策関係課	都市ブランド推進課、市民活動促進課、市民生活課、産業立市推進課、農政課、農山村振興課、観光立市推進課、国体準備課				

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対　象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標	単位	H30	R1	R2
	①スポーツ大会やスポーツ合宿の主催者 ②スポーツを行う又は興味関心のある団体や個人 ③スポーツ大会の運営を支える市民	① 日本スポーツ協会の競技団体数	団体	59	59	59
		② 日本の人口	千人	126,443	126,167	
		③ 市人口	人	119,348	118,450	117,706
		④				

施策の目的「意　図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標（意図の達成度を表す指標）	区分	単位	H30	R1	R2	R3
	①スポーツ大会や合宿を本市で実施してもらう。 ②スポーツを目的に本市に来てもらう。 ③スポーツを目的に市外から人が集まるスポーツ大会の運営にボランティアとして参加してもらう。	① 宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数	目標	件	10	12	12	15
			実績		36	48	4	
		② 市外からのスポーツ大会又は合宿の参加者数	目標	人	7,000	7,500	8,000	8,500
			実績		6,577	5,506	1,404	
		③ スポーツ大会又はスポーツ合宿に協力したボランティア数	目標	人	400	400	450	450
			実績		2076	1,018	32	
		④	目標					
			実績					
		⑤	目標					
			実績					

成果指標設定の考え方	
	・スポーツを目的に本市に来てもらい、地域の活性化に寄与してもらうことが施策の目的である。そのため、宿泊を伴う人の呼び込みにつながるスポーツ大会等の開催回数と、それら大会等に市外から参加した人数、またそれら大会を盛り立てるために協力してくれたボランティアの人数を成果指標とした。

成果指標の取得方法	
①	関連スポーツ団体への調査
②	関連スポーツ団体への調査
③	市内スポーツ団体及びスポーツボランティア登録者への調査
④	
⑤	

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図		成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
スポーツツーリズムによる誘客促進	①佐野市スポーツツーリズム協会 ②スポーツ施設 ③プロスポーツ団体、スポーツに興味関心のある	①スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致する。 ②スポーツツーリズムを主体的に供用する。 ③市内施設での試合やイベント等により集客する。	①	誘致できたスポーツ事業（大会、イベント、合宿等）の数	目標	件	7	10	15	20
					実績		7	7	0	
			②	スポーツツーリズムを主体にしたスポーツ施設数	目標	箇所	2	3	3	3
					実績		2	2	2	
			③	プロスポーツ団体と連携したツーリズム事業数	目標	件	1	2	2	2
					実績		1	1	0	
スポーツを支える環境づくり	①スポーツ好きな市民	令和4年のとちぎ国体も含め、スポーツ事業を支えるボランティア活動に参加してもらう。	①	市主催スポーツ大会、スポーツイベントにスタッフとして係るボランティア数	目標	人	2,300	2,300	2,400	2,500
					実績		2,027	1,018	32	
			②	スポーツボランティアの登録者数	目標	人	50	60	70	80
					実績		50	50	58	
			③	とちぎ国体ボランティア登録者数	目標	人	-	-	50	150
					実績		-	-	7	

基本事業名	対象	意図		成果指標	区分	単位	H30	R1	R2	R3
クリケットタウン佐野の推進	①クリケットタウン佐野創造プロジェクト ②市民 ③地域の事業者	①クリケットタウン佐野創造プロジェクトの推進により地方創生を進める。 ②クリケットに興味を持つ。 ③クリケットタウン佐野創造プロジェクトに協力する。	①	クリケットタウン佐野創造プロジェクトの進捗率	目標	%	43.2	71.8	100.0	-
					実績		40.5	70.4	100.0	-
			②		目標					
					実績					
			③		目標					
					実績					
			①		目標					
					実績					
			②		目標					
					実績					
			③		目標					
					実績					

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和2年度施策の取組方針	施策の取組方針・成果指標達成状況		
	・「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトを推進するため、国際クリケット場での事業やインバウンド事業を実施する。 ・大会参加者や来場者へのおもてなし等により満足度の向上に取り組み、来訪者の増加を図る。 ・計画的にスポーツボランティアの募集・育成に取り組み、大会等を支える環境づくりを推進する。 ・本市の特徴を活かしたスポーツツーリズム事業を推進する。	取組方針	☐ 全て達成 ☑ 一部未達成 ☐ 全て未達成	【施策の取組方針達成状況】 ・コロナ禍で、人の移動、社会活動の制限、市スポーツ施設の利用制限等を強いられたため、「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトを除き、スポーツツーリズム事業に組むことができなかった。 ・ほぼすべてのスポーツ大会、イベントが中止となり、イベントボランティアのリアルに活動する場がなくなってしまったが、とちぎ国体・とちぎ大会の広報ボランティア、運営ボランティアの募集を12月25日から開始した。 【成果指標達成状況】 ・スポーツツーリズムによる誘客については、コロナ禍でクリケットチャレンジ内のエンバシーカップのみの開催に留まった。 ・イベントにおけるボランティア活動については、年度末のサイクルイベント、スポーツ推進員協議会の三毳山ハイキンの2イベントのみ。
		成果指標	☐ 全て達成 ☑ 一部未達成 ☐ 全て未達成	

基本事業	基本事業名	令和2年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	
	スポーツツーリズムによる誘客促進	・本市のスポーツイベントや様々な資源を活用した集客事業、PR等を行い、スポーツツーリズムの進展を図る。 ・2022年のとちぎ国体に向けて市民の意識・気運の醸成を育むとともに、本大会を見据えたプレ大会の準備を進めていく。	取組方針	☐ 全て達成　☑ 一部未達成　☐ 全て未達成
			成果指標	☐ 全て達成　☑ 一部未達成　☐ 全て未達成
			【基本事業の取組方針達成状況】 ・コロナ禍により、スポーツ大会、スポーツ合宿などはほぼ中止、市スポーツ施設の貸出も感染拡大により、中止、市民利用に制限する等、スポーツツーリズムを推進する状況ではなかった。 ・クリケットタウン創造プロジェクトでも、インバウンド誘客、gotoキャンペーンを活用した国内誘客事業等を計画したが中止した。 ・さのマラソンについては、全国のマラソン大会の動向や課題を調査し、本市で実施する場合の課題を浮き彫りにした。庁内において、コースや大会コンセプトなどを見直し、検討していくことを確認した。 【成果指標達成状況】 ・コロナ禍により、さのマラソン、大澤駅伝等の大規模イベントが中止となり、スポーツツーリズムイベントも実施できず、全ての成果指標は大幅なマイナスとなった。	
	スポーツを支える環境づくり	・広報誌をはじめ様々なソーシャルメディアを活用して、スポーツボランティアの活動内容を紹介しながら登録者の増加を図る。 ・スポーツボランティア登録者や協力者に対し、本市のイベントを通じて人材の確保や育成を図る。	取組方針	☐ 全て達成　☐ 一部未達成　☑ 全て未達成
			成果指標	☐ 全て達成　☐ 一部未達成　☑ 全て未達成
			【基本事業の取組方針達成状況】 ・ボランティアを活用する大規模イベントが全て中止となったため、既存のスポーツボランティアの活動機会が作れなかった。 ・令和2年12月から国体の運営ボランティアの募集を開始した。 【成果指標達成状況】 ・登録ボランティア数は、イベントを開催できなかったこともあり、登録者の増加が図れなかった。 ・国体ボランティアは、コロナ禍の影響もありR2年度末現在で7人に留まっている。	

基本事業名		基本事業の取組方針・成果指標達成状況	
クリケットタウン佐野の推進	・クリケットタウン佐野創造プロジェクトを進めるためにも、地域や各種団体等と連携しながら佐野市国際クリケット場での大会やイベントを通じて誘客を進めていくとともに、交流の拠点づくりを図る。	取組方針	☐ 全て達成　☑ 一部未達成　☐ 全て未達成
		成果指標	☐ 全て達成　☑ 一部未達成　☐ 全て未達成
		【基本事業の取組方針達成状況】 ・コロナ禍により当初事業計画を変更し、市内向け、市民向けの事業を手厚くし実施した。 ・SICGの利活用促進として、クリケット＆マルシェ、アクティビティイベントの企画販売等を実施した。 ・まちなか交流拠点として、JR佐野駅前にクリケットチャレンジハウスを設置しcafe＆ショップを運営 ・起業・ビジネス開発支援として、市内事業者の地域資源を活用した商品開発を支援した。 ・プロモーションとしてイオンモールで市民向けイベントを開催、オンラインでクリケットを活用した映像（動画、歌、ダンス）の公開、首都圏の主要メディアへの露出を行った。 【成果指標達成状況】 ・地方創生推進交付金対象事業としては完了したが、その中で設定したKPIはコロナ禍の影響で達成できなかった。	
		取組方針	☐ 全て達成　☐ 一部未達成　☐ 全て未達成
		成果指標	☐ 全て達成　☐ 一部未達成　☐ 全て未達成

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
		市民	事業所	行政
	・国は、「スポーツツーリズム推進基本方針」において観光立国の姿を示し、インバウンド政策を進めるとともに、地方創生において雇用創出、定住化による地域活性化を支援している。 ・市議会において、クリケットを核にスポーツツーリズムを推進することについて、支持する意見をいただいており、成果を期待されている。 ・令和4年に栃木国体があり、本市はラグビーの全種目とバレーボールの成年男子を開催する。 ・台風第19号と新型コロナ感染症拡大の影響により、さのマラソン、大澤駅伝等の中止、スポーツ施設の供用を中止する等、スポーツを実施する環境が大きく損なわれている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドのみならず国内ツーリズムの先行きが不透明の状況にある。	・スポーツツーリズムの意図を理解し、おもてなしの心をもって来訪者に接する。 ・スポーツボランティアの活動に参加する。	・クリケットタウン佐野創造プロジェクトを理解協力するとともに、プロジェクトを活用して収益を上げる。 ・スポーツツーリズムを活用し、ビジネスチャンスを創出、拡大させ、地域の活性化を図る。	・クリケットタウン佐野創造プロジェクトを推進する。 ・スポーツツーリズムで活用するスポーツ施設を確保し、快適に利用してもらえるよう管理に努める。 ・スポーツツーリズムにかかる事業を持続的に支援する。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
・新型コロナウイルス感染拡大の影響が、施策の取組みに大きく影響し、その結果成果指標にマイナスに作用した。 ・年間を通して実施できた事業は「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトに留まり、さのマラソン」、「大澤駅伝」、「関東高校駅伝」、「県高校駅伝」、「FLVバレーボール」、「石井琢朗杯」「BCリーグ佐野市民デー」等、これまでツーリズム事業として実施してきた各事業がコロナ禍を理由に中止となった。 ・「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトプロジェクトにおいても、国内誘客を想定したツーリズム関連事業を中止し、企業ビジネス開発事業やリアルイベントとして市民向けのイベントに振り替えた。 ・とちぎ国体に向けては、イベントを活用した機運醸成機会は作れなかったが、SNSやホームページ等での情報提供を常時行い、プレ大会、本大会に向けての準備事務を進めた。 ・とちぎ国体に向けての準備も、コロナ禍でイベント等でのPRもままならなかったが、国体ボランティアの募集を開始した。 ・本施策の令和2年度決算額は約136,557千円の見込みで、令和元年度決算額134,847千円に対しては、1,709千円増加した。主な要因は、クリケットタウン創造プロジェクト事業費の増である。	【令和3年度で解決する課題】 ・さのマラソンの開催方向性（イベントコンセプト、実施時期、コース等） ・クリケットタウン創造プロジェクトの総括と方向性の検討 【令和4年度以降に引き継がれる課題】 ①コロナ禍が継続することによるスポーツツーリズムのあり方 ②地方創生事業「クリケットタウン佐野」創造プロジェクトの将来像とその実現 ③国体や障スポ、新さのマラソン等のイベントや総合型地域スポーツクラブの活動等の市民スポーツを支えるボランティアの確保 【令和4年度の重点課題】 ④いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会の開催 ⑤さのマラソン大会の実施計画の検討	①今後のコロナ禍を見通しながら、インバウンドによるクリケット誘客なども含めスポーツツーリズム事業のあり方を見極めていく。 ②地方創生事業として実施した取組みを総括し、校舎の利活用も含めた国際クリケットの利用方針、ソフトも含めた地方創生事業のあり方等を長期的に展望し、諸事業の継続を見極めていく。さらに、国際クリケット場は、旧校舎の利活用も含めた施設のあり方、国際クリケット場の維持管理運営について、日本クリケット協会等と協議しながら、施設のあり方、整備の方向性をつけていく。 ③④国体、障スポ、さのマラソンをはじめ、様々なスポーツの場面で活躍するスポーツボランティアの活動を制度化し、活動の輪を広げていく。特に、国体は市民総参加のもと、花いっぱい運動、炬火イベント、国体ダンス普及等を実施、開催機運を醸成する。 ⑤さのマラソンは、令和3年度の実施せず、ボランティアの拡充や企業協賛を積極的に募る等、新たな手法をとりいれるため大会の方向性を見直す。マラソン大会組織委員会事務局の体制を再構築する。